

2019 年度日本鳥学会評議員会報告

日 時：2019 年 9 月 13 日（金）18:00–20:45

場 所：帝京科学大学千住キャンパス 7 号館 7401 教室

出席評議員：尾崎清明（会長）・植田睦之（和文誌編集委員長）・亀田佳代子・川上和人・齋藤武馬（鳥類分類委員会委員長）・嶋田哲郎（事務局庶務幹事）・高木昌興・永田尚志・西海 功（目録編集委員会委員長）・濱尾章二（基金運営委員会委員長・図書管理委員）・早矢仕有子・山口典之・山崎剛史（自然史学会連合担当）・綿貫 豊（副会長）

各種委員会代表等：新妻靖章（英文誌編集委員長）・佐藤重穂（鳥類保護委員会委員長）・金井 裕（日本産鳥類記録委員会委員長）・牛山克巳（企画委員会委員長）・森 さやか（広報委員会委員長）・天野一葉（選挙管理委員会委員長）

事務局：浅井芝樹（事務局長）・安藤温子（会計幹事）

監 事：加藤ゆき

報告・審議事項

- 1) 各種委員会報告（報告内容について委員会報告を参照）
- 2) 事務局関係報告
 - a) 会長・評議員選挙結果報告（報告内容について選挙結果報告を参照）
 - b) 会員動向
 - c) 2018 年度会計決算報告（和文誌 68 巻 2 号に掲載）
 - d) 2019 年度会計予算の執行状況の報告
- 3) 審議事項
 - a) 次期各種委員会体制に関する審議
和文誌編集委員会で植田睦之が退任し、山本誉士、吉川徹朗が就任。英文誌編集委員会で山口典之が退任。企画委員会で川上和人、三上 修、千田万里子が退任。基金運営委員会で濱尾章二、亀田佳代子、相馬雅代が退任し、川上和人、関 義正、風間健太郎が就任。
 - b) 2020 年度予算案
2020 年度予算案が諮られ、承認された。

- c) 2020 年度大会開催地
評議員会冒頭で白木大会会長より挨拶がなされた。
- d) 2021 年度大会開催候補地
2021 年度大会開催候補地（東邦大学、事務局：山階鳥類研究所）について審議、承認された。
- e) 2019 年度大会における韓国鳥学会招聘について
韓国鳥学会招聘及び今後の連携について審議、承認された。
- f) 大会ウェブサイトの著作権
大会ウェブサイトの著作権の規定改定について審議、承認された。
- g) 各賞の選考報告
黒田賞について主要 5 編の業績リストを報告書に付加する案が承認された。
- h) 大会運営体制検討ワーキンググループ
大会運営体制検討ワーキンググループ設置について審議、承認された（ワーキングメンバー：植田睦之、森 貴久、白木彩子、早矢仕有子、山口典之）
- i) 名誉会員の推薦
江崎保男氏の名誉会員推薦について審議、承認された。

日本鳥学会 2019 年度総会議事報告

2019 年 9 月 15 日（日）16:00–17:40 帝京科学大学千住キャンパス 7 号館 7202・7203 教室：開会宣言、会長挨拶、大会会長挨拶、総会成立確認の後、森 貴久氏を議長に選出し、日本鳥学会ポスター賞授与のあと、以下の報告が行われた。

- 1) 会員動向（評議員会報告を参照）
- 2) 評議員会報告（評議員会報告を参照）
- 3) 各種委員会報告（各種委員会報告を参照）
- 4) 選挙結果報告（選挙結果報告を参照）
- 5) 次期会長挨拶、次期事務局体制
嶋田哲郎が退任し、次期事務局体制について、尾崎会長、綿貫副会長、浅井事務局長、安藤会計幹事は留任。山口恭弘氏が庶務幹事に就任。以下の議事が審議され、承認された。

- 1) 2018 年度会計決算・監査報告
- 2) 2020 年度予算案
- 3) 規定改定
- 4) 名誉会員の推薦

2020 年度大会開催予定地（東京農業大学北海道オホーツクキャンパス，網走）について白木彩子大会会長より紹介，挨拶がなされた．閉会宣言にて終了．

和文誌編集委員会報告

1) 日本鳥学会誌発行状況

67 巻 2 号を 10 月に 68 巻 1 号を 4 月に発行した．Editor's Choice「注目論文」はそれぞれ，白井さんの落葉広葉樹林再生過程における鳥相変化の論文，三上さんの鳥の人工構造物への営巣の総説に決まった．68 巻 2 号は 10 月発行に向けて現在印刷中であり，予定どおり発行できる予定である．

1 号（4 月）総説 1，原著 4，短報 1，観察記録 5，意見 1

2 号（10 月）特集 7，総説 1，原著 3，短報 5，観察記録 3

2) 日本鳥学会誌編集状況

2019 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに受け付けた投稿状況および前年からの繰り越し分を含めた論文の編集状況は以下のとおりである．

	総説	原著	短報	意見	観察記録
繰越し	5	14	6	0	9
投稿	2	7	5	0	2
受付	2	7	4	0	1
受理	5	10	7	0	6
編集中	2	10	3	0	4
不受理	0	1	1	0	1

3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去 1 年間（2018 年 1 月–2018 年 12 月）の和文誌掲載論文（2006 年第 55 巻–2018 年第 67 巻）に対する全文 PDF アクセス数は昨年の約 1.3 倍にあたる 47,893 件だった．国別内訳は，昨年と同様に日本だけで 81% を占め，その他の国はごくわずかとなった．掲載の種類で比較すると総説（掲載数：9%，アクセス数：25%），対象の分類群で比較すると特定種に限定しないもの（掲載数：15%，アクセス数：27%），分野で比較すると分類を扱ったもの（掲載数：5%，アクセス数：12%）に対するアクセス数が多い傾向が見られた．

（和文誌編集委員長）

英文誌編集委員会報告

1) 発行状況

第 18 巻 1 号（原著論文 9 編）を 1 月，2 号（原著論文 4 編・総説 2 編・短報 6 編）を 7 月に発行した．

2) 編集状況

2019 年 1 月–12 月（1/12 現在）

総投稿数 31（前年比 0.94 倍）

受理数 7 採択率 63.6% [受理数／（総投稿数－審査中数－取り下げ数）]

審査中 20

取り下げ 0

却下数 4（うち編集委員会却下数 1）

（英文誌編集委員長）

鳥類保護委員会報告

1) 大規模太陽光発電に関する意見書の提出

2019 年 6 月に環境省に対して，鳥類保護委員会から「太陽光発電施設に関する環境影響評価等の法制度の整備を求める意見書」を提出して，環境省の担当者と意見を交換した．意見書の内容は環境影響評価制度の対象となる発電施設の規模要件を厳しく設定することを求めるとともに，鳥類をはじめとする生態系への影響についての調査および予防原則に基づく影響の回避措置を求めるものである．

2019 年度大会において，大規模太陽光発電が鳥類に与える影響についての自由集会を開催して，問題点を整理して示すとともに，発電施設と鳥類の関係についての研究事例を紹介して，鳥類研究の視点から求められる研究について集会参加者と議論を行った．

2) 過去の決議や要望書の提出後の経緯

a) 上関（2008 年度大会決議）

中国電力は 2019 年 7 月 26 日，山口県から上関原発建設に係る公有水面埋立免許について，2023 年 1 月までの伸長許可を得たが，合わせて山口県から「上関原子力発電所本体の着工時期が見通せない状況にあることから，発電所本体の着工時期の見通しがつくまでは埋立工事を施行しないこと」という要請があった．

- b) 御蔵島のノネコ対策
外来ネコ問題研究会によるシンポジウムが継続して開催され、その中で離島における海鳥とネコによる脅威について指摘されている。ノネコ問題について、必要に応じて日本哺乳類学会や日本生態学会との連携を検討する。
- c) 道北の風力発電および北上高地の風力発電
2017年に要望書を提出した後、大きな進展はないが、引き続き関係者と情報交換しながら事態を注視していく。
- 3) 秋田県由利本荘市の洋上風力発電事業について
会員からの要請に基づいて、由利本荘市沖で計画されている大規模な洋上風力発電が鳥類に及ぼす影響について検討した。この計画については、2019年3月に由利本荘市野鳥を愛する会、日本野鳥の会秋田支部、日本野鳥の会の3者の連名で、事業者に対して要望書が提出されている。事業者による計画について秋田県の環境影響評価の手続きがとられていて、準備書に対するパブリックコメントが募集されたため、2019年11月に委員長から意見を提出した。意見の内容は、ガンカモ類の渡りルートやアビ類の越冬地であることから十分な調査と配慮が必要とするものである。また、秋田県及び経済産業省に対して委員会からの意見書の提出の可否について、関係者と協議して、検討をすることとした。
- 4) コウノトリ等の放鳥事業と餌としての外来ドジョウについて

日本魚類学会自然保護委員会の委員から、コウノトリやトキの放鳥事業の際に餌として撒かれるドジョウが遺伝的攪乱を生じさせる恐れがあるという問題提起があり、日本鳥学会事務局から、この件について鳥類保護委員会で検討してほしいという依頼があった。

検討した結果、放鳥事業の実施場所、およびそれによって分散した個体が定着した場所のいずれにおいても、自然状態で十分な採餌ができる環境を整備することが重要であり、餌の放流は望ましくないということを周知させるよう、鳥類保護委員会のウェブサイト公表すること、および、同様の内容が兵庫県立コウノトリの郷公園のパフレットに掲載されているので、周知することとなった。

- 5) その他の鳥類保護に関する案件
- a) 沖縄県辺野古の埋め立て問題について、日本生態学会からの呼び掛けで複数の学会が合同で要望書を出すことになり、鳥学会も賛同したが、生態学会が学会の内部事情で取り下げた。その後、2019年4月に生態学会が単独で意見書を提出している。
- b) 環境省のレッドリストについて、第5次の改定から毎年、随時見直すようになっている。トキは2019年1月に野生絶滅から絶滅危惧IA類になった。レッドリストの改訂について注視していく。
- 6) 鳥類保護委員会の体制について
次期委員長に北村 亘氏、副委員長に武石全慈氏と平田和彦氏を選出した。

(鳥類保護委員長)

日本産鳥類記録委員会報告

- 1) 目録第7版の記述事項に関する質問への対応
目録第7版の記述のうち、各地の生息記録に関する一般、もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った。
- 2) 目録の記載変更根拠資料の整理
目録6版から7版への記載変更の根拠文献や情報の確認を行い、資料として整理する作業を実行中である。
- 3) 日本産鳥類の記録文献収集および整理
稀種の記録、各地鳥類相、標本目録等の記述が掲載されている、日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った。これらは今まで同様、ある程度まとまりがついたところで、随時和文誌上に公表していく予定である。
- 4) 日本産鳥類の記録収集と整理
未だ文献化されていない日本産鳥類の記録（インターネット上に公表された記録、個人的伝聞による記録など）についての情報の収集と整理を行った。
- 5) 日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力
当委員会の委員を通して要請があった場合に限り、目録、報告書、論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に、その探索と提供を行った。
- 6) 目録第8版編集について
目録第8版の編集について、記録委員会委員は目録編集委員として各地の記録収集と整理にあたることとなった。

(日本産鳥類記録委員長)

鳥類分類委員会報告

1) 目録編集委員会との協力について

2018 年度の新潟大会の評議委員会・総会で、2022 年発行予定の日本鳥類目録改訂第 8 版出版に向けて臨時委員会、目録編集委員会の設置が承認された。これにともない分類委員会では、メンバーの全員が目録編集委員会の委員を兼務することとなった。これらの作業を行うために、分類委員会では、今年度は計 5 回（2 月 27 日、4 月 11 日、7 月 4 日、9 月 13 日、12 月 12 日）の委員会を山階鳥類研究所と帝京科学大学（鳥学会開催時）にて開催し、目録の改訂を行う上で必要な日本産鳥類の分類学的見解や分布域の確認、今後の作業スケジュールの確認等の作業を進めた。

2) 目録第 6・7・8 版の分類の変更点についての解説文の公表について

日本鳥類目録改訂第 6 版から第 7 版への分類体系の変遷の解説については、その一部を日本鳥学会誌に発表した。また全体を網羅できていない。そのため、引き続きこの作業にも取り組んでいる。現在、この内容に加え、目録改訂第 8 版でなされるべき分類の変更点も含めた解説文の投稿準備を進め、まずはカモ目の種についての解説を和文誌に投稿準備中である。

（鳥類分類委員長）

企画委員会報告

1) 鳥の学校

日本鳥学会 2019 年大会にあわせ、9 月 13 日にテーマ別講習会「高病原性鳥インフルエンザと野鳥～最近の情勢と野鳥調査者のための基礎知識」を開催した（本号に報告記事掲載）。

2) 男女共同参画関連

第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2019 年 10 月 12 日にお茶の水女子大学で開催される予定であったが台風のため中止となった。シンポジウム資料に基づいて上沖正欣委員が男女共同参画の最新の動向について鳥学通信に寄稿した。

3) 第 4 回日本鳥学会ポスター賞の実施

2019 年大会においてポスター賞を実施し、生態・行動分野で西田有佑氏（大阪市立大学）を、保全・形態・遺伝・生理・その他の分野で中原多聞氏（岡山理科大学）を選出・推薦し、学会長の承認を得て決定された。2019 年大会総会において授賞式を行い、受賞者には株式会社モンベルより記念品が贈呈された（本号に報告記事掲載）。

（企画委員長）

広報委員会報告

1) ウェブサイトの修正

英文サイト、和文サイトのリンク切れの修正を進めた。404 エラーページを作成した。

2) ウェブサイトの日々の更新

事務局、各委員会などから、月に数回の変更の依頼（最も多いのはお知らせ）が来ているが、ほぼ数日以内に処理をできている。今後もこの速度を継続する。

3) 2019 年度大会のサイトを鳥学会のサーバーに開設

2016 年度大会以降、年次大会のウェブサイトを学会と同じサーバー（さくらネット）に置くことで大会終了後もそのまま保存できるようになった。2019 年度大会も学会と同じサーバーにウェブサイトを開設した。また、今年度も大会実行委員からの依頼により、前年度大会ウェブサイトテンプレートとして提供した。

4) 2019 年度大会の各種連絡先メールアドレスを鳥学会のサーバーに開設

今年度初めての試みとして、大会事務局の各種連絡先メールアドレス 6 件を学会サーバーから提供した。学会事務局と大会事務局のメールアドレスの識別のため、大会用にはドメイン名を <osj2019.ornithology.jp> と指定して提供したが、手違いにより学会事務局用ドメイン名 <ornithology.jp> で周知されてしまったという問題があった。現行の大会運営体制が変更されない限りは、大会事務局用のメールアドレスは年度ごとに異なるドメインで発行することとする。

5) 鳥学通信の発行

2017 年 9 月 1 日から 2018 年 7 月 24 日までに 14 件の記事が掲載された。概ね月 2 報の目標を下回る結果となった。原因としては、例年より大会報告記事の投稿が少なかったことと、広報委員企画の原稿依頼が不調に終わったことである。来年度は掲載記事数の向上に務める。掲載依頼については、原稿受領後ほぼ数日以内に処理できているため、今後もこの速度を継続する。

掲載された記事の内容は大会報告が 8 報、基金運営委員会連絡が 2 報、和文誌掲載論文広報が 2 報、図書紹介が 1 報、訃報が 1 報だった。大会報告の内訳は 4 報がポスター賞報告、3 報が鳥の学校報告、1 報が大会エクスカージョン報告だった。昨年度から、自由集会報告は和文誌への掲載後に主催者からの希望があれば鳥学通信にも掲載するというようになったが、前年度集会からは問い合わせが 1 件あったのみだった。

（広報委員長）

基金運営委員会報告

1) 中村基金への遺贈

元会頭・中村 司博士からのご遺贈を 2019 年 1 月に受け、中村基金に組み入れた。詳細は前号（日本鳥学会誌 68 巻 2 号）で報告済み。

2) 2019 年度学会賞

学会賞受賞候補者として黒田賞・吉川徹朗氏、中村司奨励賞・太田菜央氏を選定し、評議員会で承認された。内田奨学賞は該当者がなかった。詳細は前号（日本鳥学会誌 68 巻 2 号）で報告済み。

3) 津戸基金によるシンポジウム助成

助成が決まった「新技術をもちいた鳥類モニタリングと生態系管理」が 2019 年 10 月 26 日に実施された。詳細は本号「津戸基金によるシンポジウム開催概要の報告」の通り。

4) 伊藤基金による国際鳥類学会議の参加補助に関する内規改定

この補助では、申請者の審査を選考小委員会が行い、基金運営委員会がそれを受けて候補者を決定し評議員会に推薦してきた。学会賞の選考において選考小委員会が廃止されたことに倣い、基金運営委員会が申請者の審査を行い候補者を選定することとした。

4) 2020 年度学会賞等

黒田賞、内田奨学賞、中村司奨励賞の募集を開始した。

（基金運営委員長）

2) 会員への協力の呼びかけ

目録の改訂には分類とともに分布の最新情報が反映されることが重要で、このためには全国の会員の協力が不可欠である。そこで、2019 年の鳥学会東京大会において、日本鳥類目録の意義と第 8 版に向けた改訂作業について多くの学会員に知ってもらい、会員からの目録に対する意見の収集、改訂作業についての共通の認識を形作ってゆくことを目的とした自由集会（タイトル：みんなで作ろう！目録 8 版）を委員会で企画し、開催した。今秋には、改定案を提示して、パブリックコメントを呼びかける予定である。

目録編集委員会報告

1) 運営委員会と委員会の開催について

2019 年は計 3 回（2 月 27 日、4 月 11 日、7 月 4 日）の運営委員会を山階鳥類研究所にて開催し、委員会を 9 月 13 日に帝京科学大学にて開催した。目録で使用する地名や地理的区分、生息状況区分の定義を定め、再検討が必要な亜種のリストの作成、分類の検討方法の決定をおこなった。全国の分布記載の更新作業については、各県で鳥類分布の記録データを提供していただける地域協力者 40 余名を選定し、調査票のフォームを作成し、5 月に各県の担当者に調査票を送付して依頼した。ほとんどの県について 2019 年中に回答を受け取った。今後、全ての県からの報告を受け取るとともに、結果をまとめる作業をおこなう。